

## 社会編 Social Report

## お客様との関わり

## TDKの考える品質保証

当社では、品質保証の基本理念として“ゼロデフェクト\*の追求”を掲げています。TDKは製品ライフサイクル全体にわたる“ゼロデフェクト”の実現に努力をかたむけています。出荷段階の“ゼロデフェクト”はもちろん、流通段階、セットメーカー様のご使用段階、最終ユーザー様のご使用段階、そして廃棄にいたるまでの“ゼロデフェクト”をあくまで追求していきます。

\*ゼロデフェクト (Zero Defect) : 無欠陥のこと。当社では不具合ゼロの意味で使っています。



品質保証部長 犬飼 康二



当社は品質保証について次のように考えています。

- 国内外のどの拠点で製造されたTDK製品も、まったく同じ品質であること
- その品質は、全世界のあらゆる市場と法規制の要求に応える国際水準ナンバーワンであること
- さらに、それは、お客様の要求を満たすことはもちろん、他のお客様にも紹介したくなるほどの品質であること

全世界のあらゆるお客様と法規制の要求に応える品質水準を実現するために「仕組み」「技術」「人」の3つのQualityをテーマに“ゼロデフェクト”を目指して品質保証活動を展開しています。その全社的活動があってこそ、TDKの製

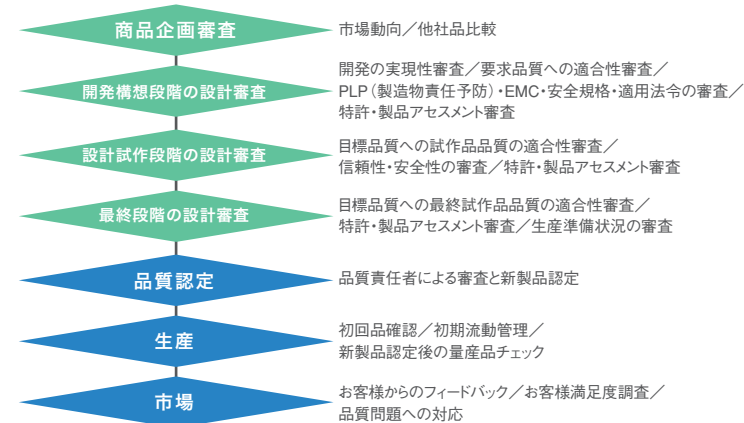
品は世界のどの拠点で作ってもまったく同じ品質を維持できるのです。また、近年の環境への関心の高まりへ対応するために、製品に含有する化学物質管理にも鋭意取り組んでいます。

## 品質マネジメントシステム

当社が生産する製品は、世界各地域を問わず、法令・規制やお客様要求を踏まえ、当社の品質マネジメントシステムにもとづいて設計・生産され、品質保証されたものです。安全

性、信頼性、製品含有化学物質については、当社の基準・規程を制定し、その徹底を図っています。

## 新製品開発段階の各段階で実施される設計審査により高品質を保証



ひとつの製品が市場にでるまでには、品質保証のために多彩な手法が用いられますが、高品質の実現に不可欠なのが設計審査です。その目的は、開発構想から最終試作にいたる各段階のあらゆる問題点をチェックし、量産に移る前に品質問題の発生を未然に防ぐにあります。設計審査は、設計開発部門だけでなく、品質保証部門をはじめ関係部門が参加することが原則。このような厳格な設計審査に加え、試作・評価を繰り返して問題点をひとつひとつ解決し、さらに初期流動管理を経て、はじめて新製品の開発が完了します。

## 電子部品におけるCS(お客様の満足)活動

当社の主力製品である電子部品のお客様は、消費者に直結した電子機器メーカー様だけでなく、電子アセンブリメーカー様、部品メーカー様があります。当社は、このような多彩なお客様に対し、次の3つの方法で「お客様満足度」を把握し、お客様に、品質・コスト・納期・環境・サービス面で総合的にご満足いただき、信頼されるTDKを目指しています。

- お客様にTDK製品を評価していただく「サプライヤー評価情報」
- お客様からいただく「製品苦情情報」
- お客様の立場に立って、パイプ役である営業担当が評価する「CS評価」

## 「サプライヤー評価情報」

お客様の「サプライヤー評価結果」を入手し、お客様が満足されているレベルを「Aランク」とし、「サプライヤー評価結果」に占める「Aランク」率の推移を把握し、関連部門にフィードバックしCS向上を図っています。

## 「製品苦情情報」

国内外を問わず、お客様からいただいた「製品苦情情報」を苦情情報データベースで管理し、オンラインで関連部門に情報を送り、すばやいアクションに結びつけることでCS向上を図っています。特に重要苦情が発生した場合は、経営トップに自動転送されるシステムになっています。

## 「CS評価」

お客様が求めるサプライヤー像に近づくため、営業担当がお客様の立場に立ってお客様のニーズを把握し、お客様の不満の内容をいち早く掴んで関連部門にフィードバックすることで改善に結びつけ、CS向上を図っています。

## お客様からの評価

トヨタ自動車株式会社広瀬工場様(所在地:愛知県豊田市)より、2008年4月23日に「品質優良賞」を受賞しました。これは2年連続で3回目の受賞となるもので、当社における品質保証を含めた、モノづくりに対してのご評価と感謝しております。広瀬工場様はトヨタ自動車株式会社様の中におかれては、電子制御装置、IC等の研究開発及び生産を担われており、当社からはインダクタ、EMC対策部品、セラミックコンデンサを納入させていただいています。今回の受賞は不良品を「持ち込まない」「つくらない」「渡さない」を基本方針とし、品質苦情件数の削減を達成したことをご評価いただいたものです。今後も改善活動を継続し、更なる品質苦情件数の削減と品質の向上を目指します。



## TDKの品質保証

企業情報 ▶ 社会・環境活動 (CSR) ▶ 社会との関わり ▶ 品質保証 URL <http://www.tdk.co.jp/csr/csr30000.htm>



## 調達取引先との関わり

### 購買理念

当社の資材調達活動は、購買理念「グローバル・パートナーシップ購買」を掲げ、以下の「購買方針」を展開しております。

#### ■グローバル・パートナーシップ購買

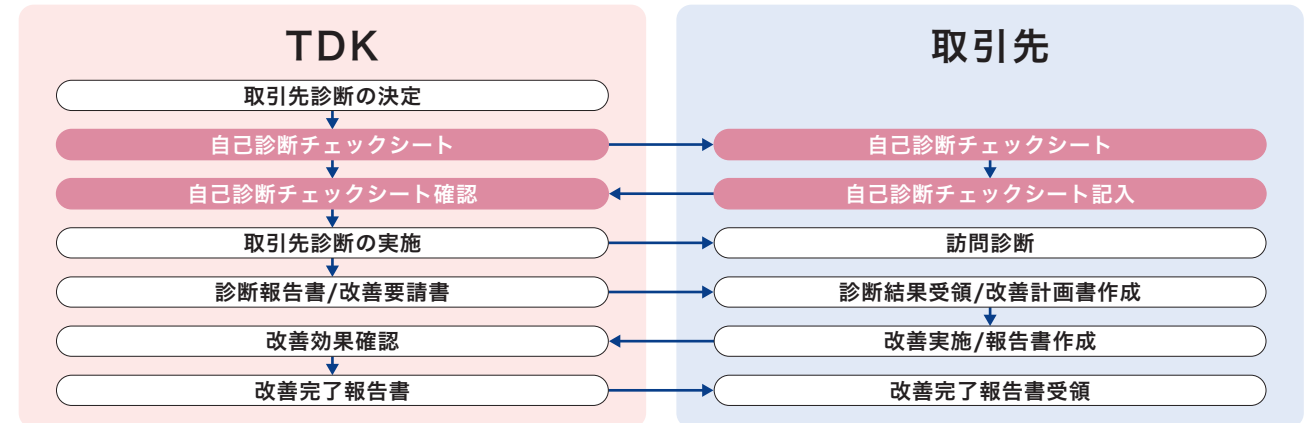
当社は、日本およびアジア・アメリカ・ヨーロッパに生産拠点をにおいてグローバルに生産活動を展開しています。そしてこれを支える調達活動は、電子業界のスピード競争とそれに伴うスピーディーな製品開発、それに追従できるグローバルな購買体制の確保が重要です。

生産拠点での現地調達はもちろんのこと、ITネットワークを活用したユビキタス社会における資材調達活動は、時間と空間を超えて、お取引先様とのより一層緊密なコラボレーションが不可欠となっています。

当社の資材調達活動は、品質、コスト、納期、安定供給、財務、グリーン調達、環境保全・人権や労働安全衛生などへの配慮、EDI取引対応等々、さまざまな観点でお取引先様を鑑み、公平・公正な評価、選定が基準となっています。さらに、継続評価をさせていただくことで、戦略パートナーから新規取引検討までの階層別調達マネジメントを施し、強固なパートナーシップを構築して、Win-Win(ウイン-ウイン)の関係を維持していきます。



SCMグループ GM 多米通浩



### グリーン購入

当社では、1999年4月にグリーン調達基準書を制定し、お取引先様の環境管理状況及び購入資材に関する調査を行い、グリーン調達を進めてきました。2004年2月には、RoHS指令等の世界各国の法律を遵守し、お客様の要求に応えるために改訂を実施し、当社のホームページに公開しました。また、2007年8月には、グリーン調達基準書Ver.4を発行し、全てのお取引先様に配布いたしました。

#### ■製品環境評価

購入資材の調査を、成形加工品、包装材料、化学物質に分けて調査を実施していますが、改訂された「グリーン調達基準書Ver.4」では、調査内容についても明確にしました。

お取引先様の調査の精度、効率性を配慮し、化学物質調査について日米欧の業界団体合意によるJIG (Joint Industry Guide) 発行に対応し、調査対象物質を24物質群(禁止物質A20物質群、管理物質4物質群)中心に調査しています。

当社の購入部材マスターは、TDKグリーン調達の基準に適合したデータとリンクさせ、当社の製品中に禁止物質が含有しないよう、徹底を図っていきます。

#### ■SPS (Supplier Partnership System)

お取引先様のプロフィール調査を紙媒体、磁気記録媒体で行っていましたが、2004年からは日本国内の調査をSPSにてWeb調査へ変更しました。そして2008年より、まず中国の拠点から海外展開を開始いたします。SPSは購買仕様書の配布、締結文書の共有化、連絡文書の配布等さまざまな機能を付加したITコミュニケーションツールとなっています。このSPSの活用で、お取引先様との連携強化をさらに図っていきたくと考えております。

#### ■CSRチェックシート

従来は、環境企業体質基準調査票として、企業体質基準、社会的責任、製品基準の3点について、調査を行ってまいりました。JEITA(社団法人 電子情報技術産業協会)のCSRガイドラインが発行された機会に、調査票の見直しを行い、新たにCSRチェックシートとして、お取引先様のCSR体制の調査を行うことにしました。CSRチェックシートに回答することにより、お取引先様のCSRの取り組みを調査するとともに、企業の社会的責任の認識を高める活動を行っています。



#### TDK購買方針

##### ■遵法

購買活動にあたっては、関連法規を遵守いたします。また、法律個々の条項ばかりでなく、その精神をも尊重するように務めます。

##### ■人間的尊重の重視

サプライチェーンのいかなる場においても、構成員(Workers)の人間の尊厳が重視されるよう務めます。

##### ■CSR

TDKグループの資材機能は、自らCSR活動を継続的に行うことは当然とし、お取引先様にもCSRの重要性を理解していただき、その認知度を高めてもらうための働きかけ(CSRチェックシートによる評価)を継続的に実施しています。

##### ■グリーン調達

地球との共生を旨とし、全社環境保全活動の一環として、環境に配慮した物品の調達(グリーン調達)を推進します。

##### ■公平・公正な取引

企業規模、国籍を問わず公平にお取引を行います。品質、価格、納期、安定供給など総合的に公正な評価をしてお取引を行います。

##### ■パートナーシップ

お取引先様とは、共通な目標のもとに良好な相互補完関係を築くことを目指します。

##### ■VE/VA活動

VE/VA活動によるコストの改善、新材料、新技術の提供ができるお取引先様を重視します。

##### ■IT活用

IT、ネットワークを活用したお取引先様との情報交換は、業務のスピードアップ、連携強化に不可欠と考えます。

##### ■品質・納期・安定供給

お取引先様とのパートナーシップにより、常に品質・納期・安定供給に配慮する活動を行います。

### 取引先診断

当社では、2003年4月から原材料、部品を購入しているお取引先様の企業診断を実施しています。診断項目は、化学物質、品質、コスト、納期、環境など、89項目にわたります。

診断結果とともに、必ず改善していただきたい「是正依頼」と改善に関しての「要望事項」をお取引先様に提出し、対応を求めています。また、TS16949品質システム構築が必要なお取引先様に対しては、第三者診断を行っております。

この企業診断を現在の基準で実施、終了したお取引先様は、2008年3月末時点で584社となりました。

2008年度は、200社の企業診断を予定しています。





## 従業員との関わり 雇用と人材育成

### 人事に関する基本的な考え方

当社は、社是の実現のための最も重要な財産の一つとして従業員を捉えています。「企業永遠の繁栄の源泉は人の育成にある」という人事の基本理念に則り、従業員一人ひとりが個人として尊重され、それぞれの能力や可能性を自律的かつ最大限に伸ばす「環境」と「仕組み」をつくることを目的として、様々な施策を進めています。

### TDK人事制度の概要

当社の人事制度の根幹となる評価・報酬制度は、「発揮能力」と「成果」に着目した目標管理をベースとした「自己管理制度」を基本としています。「自己管理制度」は単なる評価制度ではなく、従業員（部下）自らが能力開発目標、業務目標を設定し、その達成のために上長がバックアップを行うことで、従業員一人ひとりの能力や自律意識、参画意識を高めること、上長と部下のコミュニケーションを強化することを狙いとしています。

2006年度からは、既存の人事制度を再点検し、経営理念に根ざす不易なもの（チャレンジ精神・本音の討議）と、社会環境や事業の変化に対応したものとの峻別しながら、人事教育体系の再構築に取り組んでいます。

### 自律型人材の育成（能力開発・育成プログラム）

当社の人材育成目標は、「自律型人材」の育成であり、「自律型人材」とは、常に問題意識を持って、自ら知恵を絞り、困難な課題にも積極的にチャレンジし、変化を察知して最適化をはかり、描いたビジョンを最後までやりきる人です。こうした「自律型人材」の育成のため、採用や配属、さらに人事諸制度との関係をはかりながら、人材の育成に努めています。

当社の能力開発・育成プログラムは、若いうちから段階的に自律的な仕事の進め方を身に付けることを目的とした、「階層別研修」と「選抜リーダー研修」、また、プロフェッショナルに必要な専門性を身につけるための「各種専門教育」と「能力開発支援制度（資格取得奨励制度・通信教育奨励制度）」の2つから構成されています。

#### ■2008年度 新教育研修プログラム

2008年度から「中堅社員研修」を新たにスタートさせました。この研修の特徴は、期待役割を明確に認識した上で、数年先の自己開発目標を自ら設定し、計画的に実施することで、自己のキャリア開発に責任を持ち、主体的に行うことにあります。また、創造的・戦略型リーダーの養成を強化するため、従来の「プロジェクト・リーダー育成研修」を「革新型リーダー育成フォーラム」として再スタートしています。

#### ■新造帛塾（しんぞうはくじゅく）

2002年度からスタートした次世代経営幹部候補者育成研修「造帛塾」を刷新しました。研修期間を1年から2年に延長して、経営幹部に必要な人間力強化のためのプログラムを加え、塾生が自ら具体的な事業戦略目標を立案し、経営層へ提案することで、単なる研修ではない、実践的プロジェクトとしての役割も担っています。

#### ■留学制度

当社では、経営コース（国内外MBA派遣）、法務コース（海外Law School・国内法科大学院派遣）、技術経営コース（国内外MOT派遣）の3コースを設け、業務上必要なプロフェッショナル人材の育成を図っています。



執行役員 人事教育部長 米山 淳二



革新型リーダー育成フォーラム

#### ■IMD(International Management Development Seminar)研修

TDKグループ人材の真のグローバル化、国を超えた連携の強化を主目的として、IMD研修を実施しています。対象はTDKグループ海外現地法人及びTDK(日本)のマネジャークラスです。1997年より11回開催し、15カ国154人が参加しました。



### 一人ひとりのポテンシャルを最大限に引き出すための仕組み（人事諸制度）

#### ■アクティブ社内公募制度

人材募集の社内掲示板を見て、上長を通さず人事部門に直接応募が可能なアクティブ社内公募制度を2000年から導入しています。2008年3月までに89人が合格し、異動が実現しました。

その他、以下の取組みを行っています。

- キャリアオプション制度
- 自己申告制度
- プロジェクトマネジャー年俸制
- 重点テーマ達成賞与

### 一人ひとりが個人として尊重され、安心して働ける環境の整備

#### ■人権尊重・機会均等への取り組み～ダイバーシティ・アクション推進プラン～

当社は2002年に企業倫理綱領を制定し、その中で人権の尊重に関する項目を明記しております。具体的な人権尊重、機会均等への取り組みとしては、従業員への啓発教育の実施、ヘルプライン等の専用相談窓口の設置、育児・介護に関する諸制度の整備を実施しています。

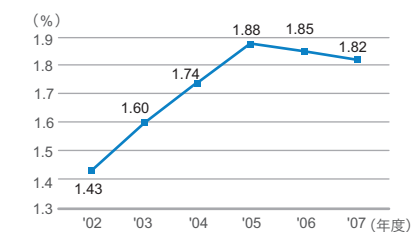
多様な人材を登用・活用するための新たな取り組みとして、2007年下期から「ダイバーシティ・アクション推進プラン」

として、各部門毎にダイバーシティ推進分科会を設置し、全社運動を展開しています。

2008年からは、ダイバーシティ・アクション推進プランの一環として、定年退職者や出産・育児で退職する社員が退職する時に登録できる「キャリア・バンク」を創設し、退職後でも、保有する能力、人脈等を最大限活用して働くことのできる仕組みを導入しています。

#### ■障がい者雇用について

当社の障がい者雇用率は2007年度平均1.82%と、昨年度に引き続き法定雇用率を達成しました。障がい者雇用の促進は当社にとっての重要課題の一つと認識しており、今後も「障がい者が働きやすい職場づくり」「採用目標数の設定」等、具体的なアクションプランを策定し、着実に実行していきます。



## 従業員との関わり 安全衛生

### 安全衛生に関する基本的考え方とOHSMS導入

当社は、労働災害を一層低減させるために、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSMS)の導入が有効であると考えています。

2003年度より、環境マネジメントシステムと共通の全社システムの構築を行い、2004年2月にOHSAS18001の

認証を取得。日本国内事業所では2007年度に導入を完了しました。

また、海外では、一部製造拠点で認証を取得しているほか、中国地区では2007年度より全社システムの導入を開始し、2008年2月に一部製造拠点にて認証を取得しております。

### メンタルヘルスケア

主要な事業所に専門医によるメンタルヘルス相談窓口を設置したり、従業員が気軽にカウンセリングを受けられる体制を整えるとともに、講習会なども開催しております。

#### CSRレポート

企業情報 ▶ TDK CSR Report2008 ▶ 従業員との関わり（雇用と人材育成）

URL <http://www.tdk.co.jp/csr/kankyo/report/report08/social/soc00400.htm>

#### CSRレポート

企業情報 ▶ TDK CSR Report2008 ▶ 従業員との関わり（安全衛生） URL <http://www.tdk.co.jp/csr/kankyo/report/report08/social/soc00410.htm>

企業情報 ▶ TDK CSR Report2008 ▶ データ編 ▶ ISO14001/OHSAS18001認証取得事業所

URL <http://www.tdk.co.jp/csr/kankyo/report/report08/data/dat00200.htm>



## 株主・投資家との関わり

### 情報開示に関する基本方針

TDKグループは、秘密情報を除き、公衆が必要としている情報を適時かつ正確に開示することで、経営の公正と透明性を維持します。TDKグループは、株主、投資家、顧客、取引先、従業員等が各々の立場でどのような情報を必要として

いるのかを把握し、広報、総務、営業、購買等の関連機能、あるいは、事業所の各担当部署を通じて、公平に、誠意を持って対応します。

「TDK企業倫理綱領」第2章 企業行動基準より

### 株主・投資家とのコミュニケーション(IR)活動の目的

当社は、IR活動の目的を誠実かつ公平な情報開示により、経営の委託者である株主に対する受託者としての説明責任のみならず、投資家・アナリスト等を含めたステークホルダーのみなさまへの説明責任を十分に果たし、長期的な信頼関係を構築すること、双方向コミュニケーションを通

じて信頼や評価を得ることにあると考えております。この目的を不断に追求するために、当社は、必要とされる情報を継続的に提供するとともに、外部者の視点によるご意見を経営改善に活用するためのIR活動を展開いたします。

### IR活動の積極的な推進

当社は、上記IR活動の目的に鑑み、資本市場参加者(株主、投資家、証券アナリストなど)に対し、経営戦略や事業方針について明確かつ受け手の要請に充分応える情報を提供

しなければならないと考えております。そのため、決算説明会などの場において、経営者自らが資本市場参加者に対して直接語りかけていく場を充実させていきます。

### IR活動の内容

ウェブサイトを通じて事業内容、財務内容、経営戦略、その他の重要な経営情報を公平に分かりやすく伝えることを目指してまいります。具体的な事例として、年に4回行う決算説明会はウェブサイトを通じて、生中継・録音中継による音声配信を日本語と英語で行っています。印刷物としては、トップメッセージと決算情報を記載したアニュアルレビュー、過去11年分の財務情報を記載した

インベスターズガイドを日本語と英語で毎年発行しており、株主の皆様には株主通信「TDK TODAY」を原則として四半期決算発表後に送付しています。また、アニュアルレポートとして英語で記載したForm20-F\*を原則発行しています。

\*Form20-F:当社はニューヨーク証券取引所に米国預託証券(ADR)で上場しているため、米国証券取引委員会(SEC)に登録する書類です。



ウェブサイト

アニュアルレビュー

アニュアルレポート

インベスターズガイド

TDK TODAY

#### 株主・投資家情報

株主・投資家情報 [URL http://www.tdk.co.jp/ir/index.htm](http://www.tdk.co.jp/ir/index.htm)

## コーポレート・コミュニケーション

### 広報活動について

当社では、様々なステークホルダーの皆様が必要とされている情報を公平かつ適時に開示することを基本方針としています。広報部を中心とした広報活動では、ニュースリリースの発行や各種財務資料の開示などを行い、正確で透明性の高い情報を発信することを心掛けています。また、社会

の皆様の声、ご意見、ご要望をお聞きする広聴活動も大切なことと考え、ステークホルダーの皆様からご意見をいただくための、さまざまな取り組みを行っています。当社の活動をよりご理解いただけるよう、各種広報ツールもご用意し、社会に提供しています。



What's TDK

会社案内

インダクタワールド

コンデンサワールド

### ホームページについて

当社のホームページは、ステークホルダーの皆様に向けて、企業の実態を理解していただくために、公正でタイムリーな情報を分かりやすく提供することを目指しています。当社の新製品情報から事業活動の詳細を「製品情報」「企業情報」「株主・投資家情報」の3つのカテゴリーに分けて説明

するとともに、関連する技術動向や周辺情報も、当社の製品・技術に興味を持って見ていただけるようわかりやすく解説したコンテンツ「Tech-Mag」などのコーナーを設けています。

### 社会的責任投資への対応

近年、財務面だけでなく、環境への取り組みを含む社会的側面も考慮して投資する「社会的責任投資(SRI: Socially Responsible Investment)」が欧米を中心に広がっています。当社では、SRIに関する各種調査機関に対しても積極的に情報開示を行っており、当社の株式はSAM社(スイス)とDow Jones社(アメリカ)が開発した世界的に有名な社会的責任投資インデックス(株価指数)、「DJSI: Dow

Jones Sustainability Indexes」や、日本の社会的責任投資株価指数であるMS-SRI(モーニングスター社会的責任投資株価指数)の構成銘柄に組み入れられております(2008年9月現在)。



#### ライブラリー

企業情報ライブラリー [URL http://www.tdk.co.jp/tjaaa01/aaa03000.htm](http://www.tdk.co.jp/tjaaa01/aaa03000.htm)

#### テクノマガジン「Tech-Mag」

Tech-Mag [URL http://www.tdk.co.jp/techmag/index.htm](http://www.tdk.co.jp/techmag/index.htm)



## 地域社会との関わり

### 「企業市民としての活動に積極的に取り組んでいます」

当社では、企業市民の一員として社会と共生することの大切さを改めて認識し、企業として社会にできる活動とは何かを考え、独自の社会貢献活動を推進しています。

#### 理念

「創造によって文化、産業に貢献する」という社是に基づき、企業市民の一員として社員一人一人が社会への高い意識を持ち様々な活動を行うことで、健全で豊かな社会の発展に貢献します。

#### 方針

「学術・研究／教育」「スポーツ／芸術・文化」「環境保全」「社会福祉・地域社会の活動」の4分野を選びTDKグループの様々な資源(社員、製品、資金、情報等)を活用し、NPO／NGOなどとの連携も含め、積極的な活動をグローバルに行います。

### 「学術・研究／教育」分野における取り組み

当社がこれまで培ってきた製品技術や人材を活用することで、社会に還元し、また次世代を担う若者たちにはさまざまな知識や経験、技能等を学ぶ機会を提供していきたいと考えています。

具体的には、将来の技術者育成、先端基礎技術の開発援助を目的とした、さまざまな大学の各種研究室に対する助成金援助、そして海外有力大学との産学共同プロジェクトも継続しています。

また子どもたちに科学の楽しみやものづくりの醍醐味を教えようと、各地でものづくり工作教室も行っています。その他、国内外の主要拠点では、学生や教員による工場見学、職場訪問などにも協力しています。当社の事業内容や社会における企業存続の意義等について、正しく理解していただくため、こうした取り組みは、地域社会に対する大切な教育支援活動の一つであると認識しています。



エレクトロニクス体験教室  
(TDK歴史館)



ロボットコンテスト  
(台湾)



中学生工場見学  
(静岡工場)

### 「スポーツ／芸術・文化」分野における取り組み

当社は、ステークホルダーの皆様に良質な感動と興奮を提供し続ける企業“Exciting Company”でありたいと考え、同じように人間の心を高揚させ、感動を与えてくれるスポーツや芸術活動を支援しています。

世界三大スポーツ大会の一つである「世界陸上選手権」へ1983年の第一回大会から男子ゼッケンスポンサーとして協賛。そして有名陸上選手による学生への訪問指導を実

施。また、2001年からはTDKオーケストラコンサートと称した世界の一流オーケストラの日本公演に協賛し、音楽を学ぶ方をリハーサルにご招待する企画や、楽団員に学校へ出向いて演奏してもらい、吹奏楽部の学生へ指導したり一緒に演奏したりするアウトリーチ(出張)プログラムも行っています。



有名陸上選手による指導  
(大阪)



世界一流楽団員と学生の交流演奏  
(東京)



少年野球教室  
(TDK千曲川硬式野球部)

### 「環境保全」分野における取り組み

当社は、人間の暮らしをより便利にするための製品を提供するため、開発や研究を進めていますが、それだけではなく、地球環境と共生を目指した様々な環境保全活動へも地道に取り組んでいます。

従業員による事業所周辺の清掃、隣接地域の美化運動、植樹による緑化活動などを各地で実施するなど、自然保護に対する取り組みも積極的に行っています。



清掃活動  
(TDK Dalian Corporation)



植樹活動  
(SAE Technologies Ltd.)



「TDKブナの森」へ追肥  
(秋田)

### 「社会福祉・地域社会の活動」分野における取り組み

当社は、グローバルに企業活動を展開しています。その地域社会におけるさまざまな課題を、企業の持つ資源を活用しながら、よりよい社会の実現に向けて努力しています。高齢者や児童福祉施設でのボランティア活動、車椅子やベ

ルマークなどの寄贈活動、チャリティウォークやチャリティマラソンでの募金活動、そして地域との国際交流など地域に合った活動を実施しています。



エンジェルツリー  
(TDK Components U.S.A.)



車椅子を福祉施設に寄贈  
(TDK由利本荘株式会社)



ハートウォークへ参加  
(Headway Technologies ,Inc.)

#### 社会貢献活動

企業情報 ▶ 社会・環境活動(CSR) ▶ 社会との関わり ▶ 社会貢献活動

URL <http://www.tdk.co.jp/csr/csr10000.htm>